

34. interuniversitäres Juniorenseminar  
für deutsche und japanische Kultur

参加者募集のお知らせ

10年後の私たち — In zehn Jahren



日時：2015年3月9日(月)～13日(金)

場所：国際医療福祉大学・那須セミナーハウス (栃木県那須塩原市金沢)

☆ 往復のチャーターバス (片道 2500 円) を東京都内 (池袋駅) から用意します。

参加費：32,000 円 (4泊5日宿泊代、食事代、テキスト代、通信費、保険料を含む。往復バス利用のみ別料金です)

募集人数：80 名程度 (申込み順。ドイツ語を学ぶ学生・院生を対象としますが、ドイツ語学習歴があれば社会人も可)

申込み締め切り：2015年2月25日(水) (なお、それ以前でも応募者が定員を満した段階でキャンセル待ちとなりますが、締め切り後でも空きがあれば受け付けますので、インターウニ実行委員会までお問い合わせ下さい。)

講師 (予定)：足立 信彦 (東京大)、相澤 啓一 (筑波大)、Stefan Buchenberger (神奈川大)、Ralph Degen (一橋大)、浜崎 桂子 (立教大)、Christoph Hendricks (ジャーナリスト)、鎌倉 澄 (学習院大)、野端 聡美 (立教大)、岡山 具隆 (早稲田大)、Matthias Pfeifer (静岡県立大)、高橋 優 (福島大)、他

参加申込みは次のサイトから (「インターウニ」で検索!) :  
<http://www.interuni.jp/anmeldung>

主催：インターウニ・ゼミナール実行委員会  
(代表：相澤 啓一、浜崎 桂子)

お問い合わせ：<http://www.interuni.jp/kontakt>

ホームページ：<http://www.interuni.jp/>

共催：筑波大学 (TEACH = 日独韓共同修士学位プログラム  
<http://trans.hass.tsukuba.ac.jp/teach/ja/>)

協力：Goethe-Institut Tokyo (ドイツ文化センター)、Deutscher Akademischer Austauschdienst (ドイツ学術交流会)



	3月9日(月)	3月10日(火)	3月11日(水)	3月12日(木)	3月13日(金)
8:00		Frühstück		起床・朝食	
9:00	Abfahrt von Tokio 10時 東京出発 ↓ Anreise 到着	授業2 Gruppenunterricht	Studentischer Tag	授業4 Gruppenunterricht	Gruppenpräsentation グループのプレゼン
12:00		Mittagessen + Pause			12.30 Abreise 解散
13:00	13.00-14.00 Spiele	Freier Nachmittag (13.00-15.00)	13.00-14.00 Spiele	Rückfahrt 現地出発 16時半～17時頃 池袋着 (予定)	
14:00	Einführung 導入 グループ分け 基調講演	14.15-17.15 授業3 Gruppenunterricht	講演・討論		14.15-17.15 授業5 Gruppenunterricht
18:00		Brainstorming		パーティ準備	
19:00	Abendessen + Pause		夕食+休憩		Änderungen Vorbehalten!
21:00	授業1 Gruppenunterricht	Abendprogramm	プレゼン準備 / グループワーク	Schlussfeier パーティ	
	Kneipe / Nachtruhe / 就寝 ?!				

インターウニ・ゼミナールは、せっかく習ったドイツ語をもっと学びたいと思い、またドイツ語圏の地域や日独文化交流に関心を持つ学生たちが、全国から、そしてドイツや韓国からも集まって議論する合宿ゼミです。いろいろな学生・教員がさまざまな大学から集まって (interuniversitär)、一つのテーマについて日独の文化を比較・対照しながら (interkulturell)、専門の枠を超えて (interdisziplinär)、国籍や文化、性差や世代や (例えば教師と学生といった) 立場の違いを超えて互いに学びあう (Inter-Lernen) というゼミです。ゼミではできる範囲で、なるべくドイツ語を使って議論してみましょう。ドイツ語を習い始めたばかりの大学1・2年生にとっては、実際にドイツ語を口に出してコミュニケーションにトライしてみる絶好の機会です。もっとドイツ語ができる人は、テーマをめぐって自由に議論してください。ドイツ語能力別の少人数クラスが編成されますので、自分にぴったりの居場所が見つかります! アクチュアルなテーマとドイツ語学習を欲張りに組み合わせるインターウニに参加して、全国各地の大学から来る新たな友人や日独の教員、さらにはドイツや韓国から来る学生たちと、ドイツ語漬けの充実した4日間を過ごしてみませんか?

## 今回のインターウニのテーマ： 10年後の私たち — *In zehn Jahren*

10年前、皆さんの多くはまだ可愛い小学生でした。今から10年後、皆さんを取り巻く世界はどうなっているでしょう？ 誰もが平和で幸せな未来を望んでいますが、世界にはいろいろな問題があります。いわゆる「イスラム国」に代表されるような不安定な中東情勢はどうなっているのでしょうか？ 中国はどこまで大国化しているのでしょうか？ 開発途上国の人口増加などにより、地球規模で水や食糧が不足する事態になってはいないのでしょうか？ 地球温暖化は進んでいるかもしれませんが、温暖化の議論の枠組みそのものが既に今とは一変しているかもしれません。原発はそれまで大丈夫でしょうか？ 日本国内もさることながら、もし朝鮮半島などで「想定外」の原発事故が起これば、もう日本には住めなくなっている可能性だって否定できません。いや、そもそも全く予想していない事件が起こって、思ってもみなかった方向に転がっていくのが世界史というものです。最近では火山活動も活発ですが、南九州の縄文文化が鹿児島県南方沖の海底火山（鬼界カルデラ）巨大噴火により一瞬で絶滅したのはたった7300年前のこと。アフリカ大陸の数千人を除いてほとんど全人類を絶滅させたと言われるトバ山の噴火が起きたのは74000年前のことでした。もしかしたら10年以内に巨大隕石が空から落ちてこないとも....、いや、まさか...ね。

日本国内の社会だけを考えても、10年後を予測するのは難しいことです。このゼミが開催される2015年3月時点で日本の借金は1143兆9000億円。私たち一人ひとりがいつの間にか900万円の赤字を背負っているという途方もない数字です。10年後、この額はせめて今より減っているのでしょうか。さらに支出を続けて2020年東京オリンピックが開催されるとしたら、その後はどうなっているのでしょうか？ 日本の財政破綻は避けられているのでしょうか？ 現在の政治家や日銀は、10年後から振り返って納得できる政策を進めているのでしょうか。少なくとも日本の人口減少と超高齢化社会の到来だけは確実です。10年後の2025年頃、65歳以上の高齢者1人を、生産年齢（20～64歳）にある皆さんがたった1.8人で支えなくてはなりません。現在の合計特殊出生率1.29をもとに単純計算するなら西暦3000年の日本の総人口はたった29人！ 外国人移民の積極的導入も検討されていますが、反対の声も根強くあり、いずれにせよ働き盛りになった皆さんがどんなに頑張っても、日本経済が成長をやめて縮小し始めるのは時間の問題でしかありません。

そんな中で皆さん自身は、10年後にどこで何をしているのでしょうか？ 多くの人は、とっくに大学を卒業して就職していることでしょう。中には既に子どもがいる人もいるでしょうが、結婚し、家族を持ちたくてもまずは経済力確保から、という人も少なくないことでしょうし、大学院での研究やキャリアを目指して努力を重ねている人もいるでしょう。このように、私たちの「10年後」を考えると、いろいろなテーマが次々に出てきます。問題や心配は山積していますが、だからこそ希望を持てる10年後を目指して、今回のインターウニで一緒に考え、習ったばかりのドイツ語で考えて表現し、対話につなげてみたいと思います。えっ？ 10年後には日独両言語間の自動通訳機があるからドイツ語を学ぶ必要もない？ いやいや、その予測だけは絶対に大外れです。

インターウニは、初級からのドイツ語を学び、また実際に使いながら、「全国各地からの新しい仲間たちと楽しく集中的にドイツ語を学ぶ」とことと「大学生らしく批判的知性を磨く」とことという2つの目標を常に追いつける欲張りな合宿セミナーです。楽しくドイツ語で話をしたり、グループでドイツ語のプレゼンを作ったりしながら、明るい未来を目指し、新しく知り合う仲間たちと真剣に語り合っ、ドイツ語漬けの5日間を過ごしましょう。ゼミナールにはドイツ語圏から来日中の学生や韓国からのゲストも参加します。講師たちも皆さんとの議論を楽しみにしています。

2014年12月

- ◎ 開催場所は交通の便が悪く、自家用車の利用は原則として禁止していますので、東京都内から研修所まで貸切バスを往復でチャーターします。3月9日の往路は午前10時に東京のJR池袋駅発、13日の帰路は夕方5時頃に池袋駅着の予定です（到着時間は大きく前後する可能性があります）。途中、JR利用者のために、それぞれ東北本線・西那須野駅に立ち寄ります。バス料金は、東京から研修所までが片道2500円、西那須野駅からの利用は片道500円です。（18日の復路も同額です。）
- ◎ ホームページから申し込みをすると、登録アドレス宛に実行委員会から受付確認メールが送られますので、それに従って参加費とバス代の合計金額を、所定の口座に振り込んでください（詳細は受付確認メールにてお知らせします）。
- ◎ 授業は、ドイツ語の語学力別に編成する10名程度の小グループで行います。グループ分け、そのほか詳細については、申し込み受付後、メールおよびWeb上にてお知らせします。
- ◎ 申し込み後のキャンセルや部分参加申請は3月5日まで受け付けます。それまではほとんどキャンセル料はかかりませんが、それ以降は実費分を差し引いた返金額となります。（キャンセル手続きの詳細については、申込み手続き後にお伝えします。）
- ◎ そもそもインターウニとは何なのか？ また、以前のゼミナールの様子やテーマ等については、インターウニのホームページ <http://www.interuni.jp/> に詳しく掲載してありますので、ぜひご覧ください。
- ◎ セミナーハウスのある那須塩原市周辺は、放射能値が比較的高い場所です。実行委員会ではその点にも十分注意し、セミナーハウス内外の値を実地に計測しましたが、建物内部では全く問題ないレベルです。この問題に対する感じ方・とらえ方は人によって大きく異なりますので、詳しくはHPをご覧ください。なおセミナー期間中建物の外に出ることはありません。
- ◎ ゼミに関するお問い合わせや、Web上での申し込みの問題が生じた場合などは、実行委員会までお問い合わせください。  
<http://www.interuni.jp/kontakt> （インターウニ・ゼミナール実行委員会宛のフォーム）



# 34. interuniversitäres Juniorenseminar

für deutsche und japanische Kultur unter dem Thema:

*In zehn Jahren — 10年後の私たち*

**Termin: von 9. bis 13. März 2015**

**Ort: Seminarhaus der International University of Health in Nasu/Tochigi-Präf.**

<http://www.iuhw.ac.jp/life/seminar/userguide.pdf>

**Teilnahmegebühr:** 32.000 Yen (für 4 Übernachtungen, Vollpension und Texte. Nicht enthalten sind die Fahrtkosten. Die Busfahrt von Tokio bis zum Seminarort kostet hin- und zurück zuzüglich 5000 Yen.)

**Teilnehmerzahl:** insgesamt ca. 80 Teilnehmer

**Anmeldung:** [www.interuni.jp/anmeldung](http://www.interuni.jp/anmeldung)

**Anmeldefrist:** bis 25. Februar 2015 bzw. bis zum Erreichen der vorgesehenen Teilnehmerzahl

- ◆ Bei Fragen/Anmeldungsschwierigkeiten: [www.interuni.jp/mail](http://www.interuni.jp/mail)
- ◆ Allgemeine Informationen zum Interuni-Seminar: [www.interuni.jp/aufdeutsch](http://www.interuni.jp/aufdeutsch)
- ◆ Ausführliche Informationen über das kommende Seminar: [www.interuni.jp/2015](http://www.interuni.jp/2015)

**Vorgesehene Lehrkräfte:** ADACHI Nobuhiko (Uni.Tokio), AIZAWA Keiichi (Uni.Tsukuba), Stefan BUCHENBERGER (Kanagawa-Uni.), Olga CZYZAK (Keio-Uni.), Ralf DEGEN (Hitotsubashi-Uni.), HAMAZAKI Keiko (Rikkyo-Uni.), Christoph HENDRICKS (Jurist), KAMAKURA Sumi (Gakushuin-Uni.), NOBATA Satomi (Rikkyo-Uni.), OKAYAMA Tomotaka (Waseda-Uni.) Matthias PFEIFER (Shizuoka-Präf.-Uni), TAKAHASHI Yu (Uni.Fukushima), u.a.

	3月9日 (月)	3月10日 (火)	3月11日 (水)	3月12日 (木)	3月13日 (金)
8:00		Frühstück		起床・朝食	
9:00	Abfahrt von Tokio 10時 東京出発 ↓ Anreise 到着	授業 2 Gruppenunterricht	Studentischer Tag	授業 4 Gruppenunterricht	Gruppenpräsentation グループのプレゼン
12:00		Mittagessen + Pause		昼食	12.30 Abreise 解散
13:00	13.00-14.00 Spiele	Freier Nachmittag (13.00-15.00)	13.00-14.00 Spiele		
14:00	Einführung 導入 グループ分け 基調講演	14.15-17.15 授業 3 Gruppenunterricht	講演・討論	14.15-17.15 授業 5 Gruppenunterricht	
18:00	Brainstorming			パーティ準備	
19:00	Abendessen + Pause		夕食+休憩		
21:00	授業 1 Gruppenunterricht	Abendprogramm	プレゼン準備 / Gruppenarbeit	Schlussfeier パーティ	
	Kneipe / Nachtruhe / 就寝 ?!				



Das Interuni-Seminar ist ein Ferien-Blockseminar, bei dem Studenten, Doktoranden und auch bereits Graduierte verschiedenster Fachrichtungen aus allen Universitäten Japans fünf Tage lang (mit vier Übernachtungen) zusammen Deutsch lernen und auf Deutsch diskutieren. Menschen, die sich bis dahin fremd waren, kommen zusammen, um Deutsch zu lernen, mit Köpfchen zu spielen, mit Deutsch zu denken und auf Deutsch zu diskutieren.

Organisiert wird das alles vom Organisationskomitee des Interuni-Seminars, einer nichtprofitorientierten Gruppe japanischer und deutscher Professoren und Deutschlehrer aus verschiedenen Hochschulen in Zusammenarbeit mit dem Dualdegree-Masterprogramm der Universität Tsukuba, mit großzügiger Unterstützung durch das Goethe-Institut und den DAAD.

Das Interuni-Seminar findet zweimal pro Jahr statt: Das Juniorenseminar im Frühjahr ist für Deutschanfänger bis zum Mittelstufen-Niveau. Der Schwerpunkt wird im März-Seminar auf Deutschlernen in Gruppen gelegt.

## Das Thema des Seminars : *In zehn Jahren — 10年後の私たち*

Noch vor zehn Jahren waren viele von Ihnen nette, kleine GrundschülerInnen. Wie sieht nun die Welt in zehn Jahren aus? Jeder wünscht sich natürlich eine friedliche Welt und glückliche Zukunft, aber die reale Welt ist voll von Konflikten und Problemen. Was wird zum Beispiel im Nahen Osten aus dem selbsternannten „Islamischen Staat“ in zehn Jahren geworden sein? Wie weit wird sich die Großmacht China noch entwickelt haben? Hoffentlich herrscht trotz der Bevölkerungsexplosion in der Dritten Welt kein weltweiter Krieg um Lebensmittel und Wasser. Die Erde könnte in 10 Jahren noch wärmer geworden sein als heute, es könnte aber auch sein, dass die Grundlage der jetzigen Diskussion über den Klimawandel durch eine ganz andere ersetzt wird. Und wie ist es mit den Atomkraftwerken? Im Rahmen des Restrisikos läge durchaus eine Reaktorkatastrophe etwa auf der koreanischen Halbinsel, die schon genügen würde, um die gesamten japanischen Inseln unbewohnbar zu machen. Überhaupt hat sich die Geschichte nie gemäß der Prognosen entwickelt: und so wird die Weltgeschichte weiterhin immer wieder unerwartete Wendungen nehmen. Denken wir an Vulkanausbrüche, wie wir sie zur Zeit in Japan häufig erleben. Es ist bloß 7300 Jahre her, dass ein gigantischer Vulkan, die heutige Unterwasser-Caldera *Kikai* südlich von *Kagoshima* ausbrach und die damalige *Jomon*-Kultur auf der Insel *Kyushu* auf einen Schlag ausgelöscht hat. Und vor 74000 Jahren soll die menschliche Population bis auf einige Tausende in Afrika drastisch reduziert worden sein („genetischer Flaschenhals“), weil es eine katastrophale Eruption des Vulkans Toba im heutigen Indonesien gab. Hoffentlich fällt in den kommenden 10 Jahren außerdem kein Riesenmeteorit vom heiteren Himmel ... Wer weiß?

Prognosen für die kommende Dekade zu erstellen, ist schon recht schwierig, wenn man allein die japanische Gesellschaft betrachtet. Im März 2015 wird die Staatsverschuldung Japans 1143,9 Billionen Yen betragen. Wenn man mit diesen astronomischen Zahlen nichts anfangen kann: Jeder Japaner hat neun Millionen Yen Schulden. Wird dieser Betrag in zehn Jahren zumindest etwas niedriger sein als heute? Wenn die olympischen Spiele 2020 in Tokio unter der Bedingung steigender Staatsausgaben ausgerichtet werden, was passiert dann? Kann man überhaupt die Insolvenz des japanischen Staates vermeiden? Verfolgen die Politiker und die Notenbank Japans zur Zeit vernünftige politische Strategien, die auch die Menschen noch in zehn Jahren überzeugen? Fest steht jedenfalls, dass Japan in eine noch nie da gewesene Überalterungsgesellschaft hineinkatapultiert wird: Im Jahr 2025 müssen für eine ältere Person ab 65 Jahren nur 1,8 Erwerbsfähige zwischen 20 und 64 aufkommen. Wenn man von der jetzigen Population ausgeht und die Geburtenrate 1,29 hochrechnet, beträgt die gesamte Bevölkerungszahl Japans im Jahr 3000 sage und schreibe nur noch 29! Angesichts dieser Lage wollen die einen mehr Migranten aufnehmen, die anderen lehnen es kategorisch ab. Klar ist, dass es bloß eine Frage der Zeit ist, dass Japan aufhört zu wachsen und endgültig zu schrumpfen beginnt.

Wo werden Sie aber in zehn Jahren sein und was werden Sie tun? Viele von Ihnen stehen wohl bereits im Berufsleben. Die einen leben schon mit der eigenen Familie, die anderen müssen vielleicht erst verdienen und sparen, um überhaupt heiraten und Familie gründen zu können, und wieder andere studieren noch oder streben mit Fleiß eine Karriere an. So viele vielfältige Gedanken und Themen tauchen auf, wenn wir an unsere Zukunft „in zehn Jahren“ denken. Trotz pessimistischer Prognosen und kritischer Überlegungen, die wir natürlich anstellen müssen, wollen wir uns im Interuni-Seminar aber auch und vor allem mit positiven Zukunftsvisionen und unseren eigenen Wunschvorstellungen beschäftigen und darüber in der deutschen Sprache gemeinsam diskutieren, die wir doch gerade erst lernen... Wie bitte? Sie meinen, das Deutschlernen erübrigt sich bald, weil schon Translationsgeräte entwickelt werden?! Nein, gerade diese Möglichkeit ist auf jeden Fall ausgeschlossen!

Auf dem Interuni-Seminar lernen motivierte Studenten mit neuen Freunden aus ganz Japan intensiv Deutsch. Sie diskutieren inhaltlich ernsthaft und kritisch auf einem Niveau, wie es sich auf einem studentischen Blockseminar gehört. Alle Teilnehmer des Seminars unterhalten sich gemeinsam, diskutieren ernsthaft über unsere Zukunft und präsentieren ihre Meinungen auf Deutsch. So leben wir fünf Tage lang mit der deutschen Sprache „eingelegt“ im Seminarhaus. Mit dabei sind PraktikantInnen aus Deutschland als Ihre Gesprächspartner, und auch diesmal kommen Gäste aus Korea. Nicht zuletzt sind wir Organisatoren und die Lehrkräfte schon ganz gespannt darauf, gemeinsam mit Ihnen ein wunderschönes Seminar zu gestalten.

Dezember 2014